

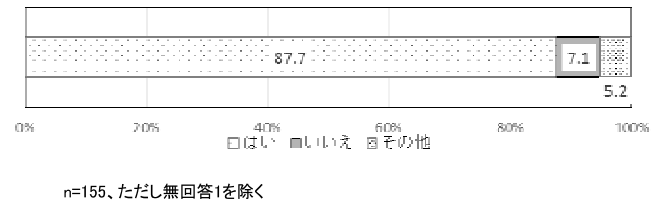
E 胎児の性別

胎児の性別1 性別を知ることの希望と実際

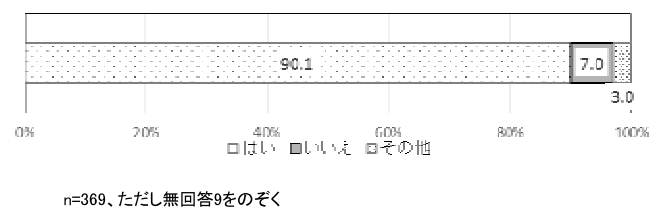
「胎児の性別を知ること(妊娠中に)希望していましたか」という質問に、「はい」「いいえ」「その他(具体的に)」の選択肢で回答してもらった。

「はい」と答えた人、つまり、性別を知ることが希望していたと答えた人は、医療機関調査では87.7%(136名)、保育園調査では90.1%(355名)といずれもほぼ9割にのぼった。胎児の性別への関心が高いことを示している。しかしながら、「いいえ」と答えた人、つまり、性別を知ることが希望していなかった人も医療機関調査では7.1%(11名)、保育園調査では7.0%(26名)いた。

図E-1 医療機関 性別の希望



図E-1 保育園 性別の希望



胎児の性別2 性別がわかったか、その方法

「医療者から性別を伝えられましたか」という質問に、性別を「伝えられた」と回答した人(「聞いたら、伝えられた」と回答した人も含む)は、医療機関調査では85.8%(133名)、保育園調査では93.2%(344名)、「伝えられなかった」と回答した人は、医療機関調査では8.4%(13名)、保育園調査では3.8%(14名)であった。「その他」には、妊娠継続中の人から、「現時点ではわからない」等の回答があった。

さらに、「性別は妊娠中にわかりましたか」と質問し、「わかった」「わからなかった」「その他(具体的に)」の3つの選択肢から回答してもらった。そして、「わかった」という人には、「どういった方法でわかりましたか」という質問をして、「超音波検査」「羊水検査」「着床前検査」「その他(具体的に)」の選択肢で回答してもらった。

- 妊娠中に性別が「わかった」と回答した人は、医療機関調査では87.7%(136名)、保育園調査では93.8%(346名)、「わからない」と回答した人は医療機関調査では7.7%(12名)、保育園調査では4.3%(16名)であった。
- なお、回答している直近の妊娠では、妊娠中の人が含まれていたため、「出産」した人だけに限って集計したところ、「わかった」と回答した人は、医療機関調査では91.9%(57名)、保育園調査では93.8%(319名)であった。
- 性別を知った方法について尋ねたところ、超音波検査(エコー)で知った人が、医療機関調査では97.8%(132名)、保育園調査では98.3%(346名)であった。

胎児の性別3 自由回答(1)

「胎児の性別を知りたい理由、知りたくない理由など、胎児の性別を知ることにについて自由にお書きください」と自由記述で回答してもらった。

- 医療機関調査では156名のうち140名(89.7%)、保育園調査では378名のうち326人(86.2%)が記入していた。この質問に対する記入率は他の自由記述欄に比べて非常に高く、関心の高さが伺えた。
- 性別を知りたい理由としては、医療機関調査と保育園調査ともにおよそ半数の人が「準備」という言葉を使っていた。「出産の準備のため」、「名前の準備のため」、「衣類の準備等、子どもの物品の準備」、「準備に時間をかけたい、ゆとりを持ちたい」などがあつた。準備という単語を使っていない人でも、「洋服を買いたかった」「名前を考えたかった」など「準備」と同内容の記述があつた。
- それ以外に、「たんに楽しみ」などの「楽しみ」という言葉も多かつた。他に「胎児に呼びかけができる」、「具体的にイメージできる」、「愛情が深くなる」、「心構えとして」という記述があつた。性別を知って、それが希望通りならば楽しみが増し、希望と違っていたならば生まれてくるまでに受け入れる、という内容の記述が目立つた。「周囲からの質問に答えるため」という回答もいくつかあつた。また、とくに希望の性別はなく、性別はどちらでも良かったけれども知りたかつたという記述も少なくなかつた。

胎児の性別3 自由回答(2)

- 一方、性別を知りたくない理由の多くは、「性別はどちらでもよいと思っていたので、知る必要はない」、「産まれるまでの楽しみにしたい」であつた。
- 「無事に(元気に)産まれてくれればどちらでもよい」も多くあげられていたが、医療機関調査で目立つた。これは妊娠中の人と比較的多かつたことが影響するのかもしれない。なお、「(男女)どちらでもよいと思っていたが、医師はしらせてがっていた」、「(希望していなかったが)エコーでわかってしまった」など医師との関係についての記述もあつた。
- 胎児の性別による中絶はあつてはならない、知るか知らないかは妊婦の自由、授かつたことを受け入れたい、といった内容の記述もいくつかあつた。